

リハビリテーション科専門研修プログラム

診療科の特色

高齢化が進み社会構造が大きく変化したことに加え、“人生100年時代”の到来とも言われる超高齢化社会が現実味を帯びています。しかし、健康寿命は期待されているほど伸びておらず、何らかの障害を持って生活する数・10数年の期間（平均寿命－健康寿命）において医療・介護が大きな社会問題となっています。このような社会情勢を踏まえリハビリテーションは、今後ますます重要性が増してくると思われています。リハビリテーション医療は、脳血管障害、神経疾患、運動器疾患、循環器疾患、内部障害（消化器や腎臓疾患など）、小児疾患およびがんなど、対象となる疾患や病態が多岐にわたる特徴を有しています。また、縦断的に急性期、回復期、生活期すべてに関わりを持っている医療分野で、今後はますます社会的ニーズが高まると考えられている診療科です。リハビリテーション科医は各診療科からリハビリテーション依頼を受け、患者さんの病状を評価したのち、治療目標・治療計画を立案しリハビリテーション処方を行います。実際の療法はリハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）が中心となって行いますが、療法中にも担当医として目標変更やリスク管理などを行い、患者さんの在宅・社会復帰を目指します。



下肢型リハビリテーションロボット

専門研修の魅力

信州大学は長野県唯一のリハビリテーション科専門研修プログラム（長野県リハビリテーション科専門医研修プログラム）の基幹施設として、県内のリハビリテーション研修の中心的役割をはたしています。長野県内のリハビリテーション研修施設群で構成されているこのプログラムは、急性期から回復期、維持期および在宅医療まで、幅広く研修出来ることが特徴です。さらに、小児疾患（信濃医療福祉センター、県立こども病院）や脊髄損傷（県立リハビリテーションセンター）、高次脳機能障害など専門性の高いリハビリテーション医療を行っている研修施設が多数含まれていますので、自分の興味に合致した研修も可能です。一方、基幹病院である信州大学医学部附属病院では、超急性期医療および高度医療におけるリハビリテーション研修を行いつつ、ロボットリハビリテーションなど新しい技術を用いた治療も経験できます。また、研究に興味があれば専門研修中であっても、現在進行中のプロジェクトに加わり新しい知見を見出す機会もあります。全国的にもリハビリテーション科専門医は不足していますので、様々なキャリアプランの実現が可能です。リハビリテーション専門職や看護師など多職種とのチーム医療に、リーダーとして携われるのもリハビリテーション科医の魅力です。すでに3名がこのプログラムでの専門医研修を修了し、専門医を取得（もしくは取得予定）しています。現在は5名の専攻医がプログラム制で研修中で、旧制度を含めると計8名がリハビリテーション科専門医取得を目指して研修を行っています。

研修カリキュラム

（1）研修期間

初期臨床研修後3年間のリハビリテーション科専門研修を行い、必要症例数等の条件を満たすと、リハビリテーション科専門医試験の受験資格が得られます。

（2）プログラム構成病院の概要（研修中に派遣される病院の指導体制など）

『長野県リハビリテーション科専門研修プログラム』は長野県唯一のリハビリテーション科専門研修プログラムであり専従の常勤指導医、臨床認定医が在籍する以下の施設群で構成されています。

<専門研修基幹施設>

信州大学医学部附属病院リハビリテーション科

<専門研修連携施設・関連施設>

・JA長野厚生連 佐久総合病院リハビリテーション科

- ・長野県立総合リハビリテーションセンター
- ・長野医療生活協同組合 長野中央病院リハビリテーション科
- ・長野松代総合病院リハビリテーション科
- ・鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院リハビリテーション科
- ・信州上田医療センターリハビリテーション科
- ・健和会病院リハビリテーション科
- ・相澤病院リハビリテーション科
- ・信濃医療福祉センター
- ・長野県立こども病院リハビリテーション科

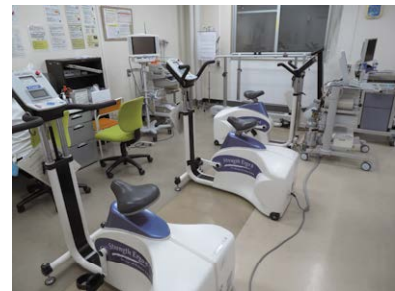


上肢型リハビリテーションロボット

(3) 研修予定

専門研修プログラムの修了判定には以下の8領域について経験症例数が必要です。日本リハビリテーション医学会専門医制度が定める研修カリキュラムに示されている研修目標および経験すべき症例数を以下に示します。

- 1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など：15例
- 2) 外傷性脊髄損傷：3例
- 3) 運動器疾患・外傷：22例
- 4) 小児疾患：5例
- 5) 神経筋疾患：10例
- 6) 切断：3例
- 7) 内部障害：10例
- 8) その他(廃用症候群、がん、疼痛性疾患など)：7例



心臓リハビリテーション室

以上の75例を含む100例以上を経験する必要があります。

信州大学医学部附属病院リハビリテーション科では上記8領域全ての症例を研修できます。専門研修修了に必要な回復期、地域連携等は専門研修連携施設、関連施設へローテーションすることで修了出来ます。その間は、連携および関連病院の指導医が指導します。

各年毎のおよその研修目標は下記の通りです。

<専門研修1年目>

指導医の助言・指導の下に、基本的診療能力を身につけるとともに、リハビリテーション科の基本的知識と技能の概略を理解し、一部を実践できることが求められます。適切な評価を行い、症例ごとにリハビリテーション治療計画を立案可能になることが目標になります。高度医療におけるリハビリテーション医療を研修希望の場合は信大病院で研修を開始し、回復期病棟での在宅支援を含めた回復期・生活期リハビリテーションから経験したい場合は、連携病院から研修を開始します。これまでの専攻医は1年目研修中に、全国レベルでの学会発表や論文作成を行っています。

<専門研修2年目>

基本的診療能力の向上に加えて、診療スタッフへの指導にも参画します。リハビリテーション科基本的知識(障害受容、社会制度など)・技能(高次脳機能検査、装具処方、ブロック療法、急変対応など)を幅広い経験として増やすことを目標とします。信大病院あるいは連携施設における研修で、回復期リハビリテーションや在宅医療についても経験し、専門研修プログラムの修了条件を満たしていきます。

<専門研修3年目>

自科および他科とのカンファレンスなどで意見の集約・治療方針の決定など、チーム医療においてリーダーシップを発揮し患者さんから信頼されるリハビリテーション医療を実践できる診療能力を習得することが目標となります。またリハビリテーション分野の中で8領域の全ての疾患を経験できているかを意識して、実践的知識・技能を習得します。専門医取得に向けての準備も重要になります。さらに、自分の専門分野を見据え学会発表や論文作成も3年目研修中の目標になります。

専門医研修修了には基幹施設である信大病院での6か月以上の研修および回復期リハ病棟研修6か月以上は必須ですが、それ以外については信州大学医学部附属病院を含む各研修施設の選択が相談により可能です。一施設で長期間の研修を希望する場合や、短期(6か月)で複数の施設を研修するなど、希望に応じた柔軟な研修プログラムが選択可能です。なお、研修期間(リハビリテーション科では3年)のうち6ヶ月までの休止・中断では、残りの期間で研修要件を満たしていれば研修期間の延長をせずにプログラム終了と認定しますが、6ヶ月を超える場合には、研修期間を延長することになっています。

プログラムローテート例(短期で多くの施設を研修する場合)

1年目	2年目		3年目	
通年	前半	後半	前半	後半
信州大学医学部附属病院	長野松代総合病院	鹿教湯病院	相澤病院	信濃医療福祉センター
佐久総合病院	長野県総合リハビリテーションセンター	信州大学医学部附属病院	長野県立こども病院	長野中央病院
長野中央病院	健和会病院	長野県立こども病院	信州大学医学部附属病院	信州上田医療センター

※上記は一例であり、必要経験症例を習得できる研修計画を随時検討可能です。

信州大学医学部附属病院における研修週間計画

	月	火	水	木	金
7:40-8:00 整形外科 腫瘍カンファ					
8:00-8:30 整形外科 下肢カンファ					
8:20-8:30 リハ部 ミーティング					
9:00-9:30 ICU カンファ					
9:30-11:30 リハ外来					
13:00-15:00 心臓リハ					
13:30-14:00 救急部リハ回診					
16:00-16:30 整形外科脊椎カンファ					
19:00-20:00 抄読会					

※その他、各領域のカンファレンスあり。

<研修プログラムに関連した全体行事の年間スケジュール>

月	全体行事予定		
4	- SR1: 研修開始。研修医および指導医に提出用資料の配布(信州大学医学部附属病院リハビリテーション科ホームページ) - SR3 修了者: 専門医認定一次審査書類を日本専門医機構リハビリテーション科研修委員会へ提出 - 長野県リハビリテーション科専門研修プログラム参加病院による勉強会(症例検討・予演会3~4か月に1回)	11	- 日本リハビリテーション医学会秋季学術集会参加 - SR1、SR2: 次年度研修希望施設アンケートの提出(研修プログラム管理委員会宛) - 次年度専攻医内定 - 長野県リハビリテーション科専門研修プログラム参加病院による勉強会(症例検討・予演会3~4か月に1回)
6	日本リハビリテーション医学会学術集会参加(発表)	12	日本リハビリテーション医学会学術集会演題公募(12~1月)
7	- 長野県リハビリテーション科専門研修プログラム参加病院による勉強会(症例検討・予演会3~4か月に1回) - SR3修了者: 専門医認定二次審査(筆記試験、面接試験)	2	長野県リハビリテーション科専門研修プログラム参加病院による勉強会(症例検討・予演会3~4か月に1回)
8	日本リハビリテーション医学会中部・東海地方会参加(発表)	3	- その年度の研修終了 - SR1、SR2、SR3: 研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙の作成(年次報告)(書類は翌月に提出) - SR1、SR2、SR3: 研修プログラム評価報告用紙の作成(書類は翌月に提出) - 指導医・指導責任者: 指導実績報告用紙の作成(書類はSR1、SR2 分は翌月に提出、SR3分は当月中に提出) - 研修プログラム管理委員会開催(SR3研修終了の判定)
10	- SR1、SR2、SR3: 指導医による形成的評価とフィードバック(半年ごと) - 次年度専攻医募集開始(信州大学医学部附属病院ホームページ)		

※SR1:1年目、SR2:2年目、SR3:3年目

(4) 専攻医受け入れ数、採用について

定員は毎年2名です。

毎年7月から病院ホームページでの広報や研修説明会等を行い、リハビリテーション科専攻医を募集します。応募者は10月末までに書類一式を提出してください(詳細については信州大学医学部附属病院卒後臨床研修センターウェブサイト(<https://www.hp.md.shinshu-u.ac.jp/sotsugorinsho/>)あるいは信州大学医学部附属病院リハビリテーション科/リハビリテーション部ホームページ(<http://www.shinshu-u-reha.jp/>)を参照)。予定では10月中に書類選考および面接を行い、採否については12月に決定して本人に文書で通知します(日程は日本専門医機構のスケジュールに準じます)。

サブスペシャリティー・学位取得の道筋

リハビリテーション科専門医を取得した医師は、サブスペシャリティー領域の専門医のいずれかを取得できる可能性があります。リハビリテーション領域においてサブスペシャリティー領域である小児神経専門医、感染症専門医など(他は未確定)との連続性をもたせるため、経験症例等の取扱いを検討中です。リハビリテーション科専門研修カリキュラムの内容を達成できることを条件とし、一定期間、大学院に所属して研究を行うことに配慮します。社会人大学院や臨床医学研究系大学院に在籍し、臨床に従事しながら研究を行う期間については、研修期間に含めることが出来ます。専門医としてのシステムは学会として整備中です。

大学院での研究テーマ、臨床研究のテーマなど

臨床業務を伴わない大学院の期間に関しては研修期間として認められませんが、社会人大学院や臨床医学研究系大学院に在籍し、臨床に従事しながら研究を行う期間については、そのまま研修期間に含めることができます。テーマについては信大病院において特に力を入れている骨関節疾患、内部障害、がんのリハビリテーション等より本人の希望を踏まえて決定します。また、信州大学医学部整形外科との共同研究である「おぶせスタディー」や信州大学の他学部(工学部や繊維学部)との共同研究にも携わることが出来ます。現在、専門医研修を修了した1名が、基礎医学教室の大学院に在籍中です。

国内留学・海外留学

専門研修期間中(3年間)は内地留学的に一定期間研修を行うことは、特別な場合を除いて認められません。特別な場合とは、特定の研修分野を受け持つ連携施設の指導医が何らかの理由により指導を行えない場合、臨床研究を専門研修と併せて行うために必要な施設が研修施設群にない場合、あるいは、統括プログラム責任者(信州大学医学部附属病院リハビリテーション科教授)が特別に認める場合となっています。

また、海外留学に関しては研修期間として取り扱うことはできないため、原則的には専門医取得後に目標や希望に応じて考慮されます。

将来の就職先など

信州大学医学部附属病院リハビリテーション科を中心として、県内外の急性期、回復期病院にリハビリテーション科医師として勤務出来ます。『長野県リハビリテーション科専門研修プログラム』に参加している専門指導医が常勤している施設以外にもリハビリテーション科専門医を求める施設は多数あります。県内には専従の指導医が常勤し、リハビリテーション科が独立している施設は少ない状況ですが、専門医が増えることで、新規にリハビリテーション科医師を採用する病院は増えると思われます。



理学療法室全景



リハビリテーション部スタッフ

連絡先

信州大学医学部附属病院 リハビリテーション科

■住所: 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 ■電話: 0263-37-2836 ■FAX: 0263-37-2835

■E-mail: rihaka@shinshu-u.ac.jp

■URL: <http://www.shinshu-u-reha.jp/>

■専門研修プログラムの詳細は、信州大学医学部附属病院HP 卒後臨床研修センター → 専門研修 [リハビリテーション科]